



Series

25春闘について考えよう!



経営側が考える春闘とは？

経団連が1月21日に発表した経労委報告(経営労働政策特別委員会報告)には、春闘における経営側の姿勢が示されています。経労委報告から経営側がどのように考えているのかを考えよう。

「はじめに」 ※一部抜粋

2025年以降も、「構造的な賃上げ」と「分厚い中間層の形成」の実現を目指して、「**人への投資**」を一層加速し、賃金引上げの力強いモメンタムを「定着」させるために、労働生産性を改善・向上させ、各企業が賃金引上げの原資を安定的に確保する必要がある。その鍵は、イノベーション創出による付加価値の増大とその**担い手である働き手のエンゲージメントの向上**であり～

「人への投資」とは？

経労委報告では、成果の適切な還元として働き手に対し、賃金引上げと総合的な処遇改善を図ると記されています。特に、賃金引上げは「コスト増ではなく働き手のエンゲージメントを高め、イノベーションを創出し、**企業の生産性を改善・向上するために不可欠な投資**である」と位置付けています。



「人への投資」と聞くと、社員のために考えてくれていると思うかもしれませんが、**投資の目的は「企業の生産性を向上させるためのもの」**です！

現実はどうでしょうか？

本当に働きがいを感じていますか？

この間の賃上げで生活は豊かになりましたか？

働き度に見合った賃金だと感じていますか？

要員不足

融合と連携

24春闘
期末手当
低額回答

「人の投資」は本当に果たされているのでしょうか！？

人への投資を強化することで、社員が**「働きがい」と「働きやすさ」**を感じる事が重要視されている！

実質賃金は3年連続マイナス！

厚生労働省が2月5日に発表した2024年の毎月勤労統計調査によると、物価変動を考慮した1人あたりの実質賃金は、前年比0.2%減で3年連続のマイナスでした。名目賃金にあたる現金給与総額は33年ぶりの高い増加率でした。つまり…

物価高に給与増が追いついていない!ということです。

「人への投資」に惑わされず、労働者の生活実感に踏まえ、私たちの生活を豊かにしていくための賃上げが必要です!